

内臟轉錯症ニ就テ

金澤醫科大學理學の診療科學教室(主任小池助教授)

桑 野 嘉 藏

内臟轉錯症 *Situs inversus S. Transversus*, *Heterothaxie*ヲ別チテ全内臟轉錯症 *Situs inversus totalis* 及部分的内臟轉錯症 *Situs inversus partialis* ノ二種トス。

本症ノ歴史ヲ按ズルニ、一八九五年 Paul Galinsky 氏ノ、報告ニ據レバ、既ニ遠ク Aristoteles (西紀前三八四—三二二年)ノ時代ニ於テ、知ラレタリト云フ。次イデー六四三年 Marcellus Tectius 氏、其ノ一例ヲ實驗セルガ、殊ニ詳細ナルハ、一六五〇年佛醫 Bion 氏ノ、刑死體ノ剖檢記録ニアリ。一八二〇年 Naquet 及 Porry 兩氏、又打診ニ依リテ一例ヲ實驗セリ。獨乙國ニテハ一八四三年 Wolschhofer 氏、始メテ理學の診斷法ニ由リテ、本症ヲ診定シ、Fr. Krich-eumeister ハ一六四三年ヨリ一八八三年ニ彌リテ、百五十例ヲ、Fr. Dorge 氏之ヲ紹ギテ、一八八三年ヨリ一九〇六年ニ及ビ、總計二百十五例ヲ蒐集セリ。

本邦ニ於テハ、明治二十三年、笠原光興氏ガ生體ニ就キ完全臟位轉錯症ノ一例ヲ、報告セルヲ以テ嚆矢トス。重村正彬氏ニ據レバ、明治四十年六月迄ニ二十五例。間島信典、染川福治兩氏ノ調査ニ依レバ、大正六年迄ニ全臟位轉錯症トシテ、報告ノ公ニセラレシモノ三十四例、單ニ實驗ニ止マレルモノ十六例、計四十九例ナリキト謂フ。明治四十四一年前島氏初メテ本症ノ診斷ニ、「レントゲン」線ヲ應用シ、大正七年先輩橋本氏二例ヲ、大正九年今田氏三例ヲ報告セリ。余ハ近時本症ノ一例ヲ、「レントゲン」的ニ診斷セルモノニ遭遇セルヲ以テ、極メテ平凡ナル症例ニ過ギザルモ、茲ニ報告シ、先輩諸氏ノ例ニ附加シ、以テ本邦文獻ノ統計材料ニ資セントス。

抑々、本症ノ發生原因ニ關シテハ、諸說紛々トシテ統一ヲ缺キ、今日ニ至ルモ尙未ダ一定セズ。憶説ニ加フルニ憶説ヲ以テシ、各々爭フテ只論議ヲ逞フスルニ止マルノミナリ。而シテ、實際ニ於テモ其ノ眞因ハ單一ナルモノニハ非ザルベシ。左ニ古來學者ノ唱フル説ヲ舉グレバ、(福士、ブローマン、宍戸氏等ニ據ル)

一、Rudolfsch 氏ハ、心管ノ違型の彎曲、即チ右ヨリ左ニ迂曲スルト云フ。從ツテ其ノ内ヲ流ル、血栓ガ、常ト異リ螺旋狀ノ回轉ヲナスニ因リテ、内臟轉錯ヲ起スト云フ。

二、Dunster 氏ハ、リンドフライシユ氏ノ云フガ如キハ、常ニ必ズシモ其ノ原因トナラズ。但シ此ノ廻轉ガ、其ノ原因ヲナス事ハ眞ナリト。若シ鶏卵ヲ孵化スルニ當リ、之ヲ不規則ニ温ムル時ハ、其ノ胎兒ノ左ガ右ヨリモ強ク發育シ、此ノ時心臟ハ右ニ至リテ内臟轉錯ヲ起スト謂フ。

三、Hilbre 氏ハ曰ク、肝臟ガ違型的位置ヲ占ムルニ依リテ、他ノ諸臟器モ亦轉錯ヲ起スト。

四、Pol 及 Waryusky 兩氏ノ説ハ、雙畸形兒ニ重キヲ置キ、其ノ右側ニアル兒ガ常ニ内臟轉錯ヲナスモノナリト。

五、Vesnani 氏ハ内臟索ノ樞軸轉振ニ歸因セシメ。

六、Karl, Buer, Bichoff, Förster 氏等ハ、胎兒ノ反對ノ廻轉ニ歸因シ胎胞ガ胎兒ノ左ニ横ハラズシテ、右ニ在ルナリト。

七、Virchow 氏ニ據レバ、臍帶ト内臟轉錯トハ何カ關係アルモノナラント謂フ。

八、Küchenemeister 氏ハ、胎兒ノ發育ハ上方ヨリ下方ニ向ハズシテ、反對ニ下方ヨリ上方ニ發育スル故ニ、胎兒ノ廻轉ガ反對ノ方向ヲ取ルモノナリト謂フ。

以上ノ諸説ヲ總括シテ按ズルニ、要スルニ左ノ二原因ニ歸スルモノナランカ。即チ、

一、或主ナル臟器ガ、胎兒發育ノ最モ初期ニ於テ其ノ位置ヲ轉倒シ、以テ全臟器ノ轉錯ヲ起スモノニシテ、左ノ臟器ハ以テ主ナルモノトス。

原著 桑野 内臟轉錯症ニ就テ

a. 心臟 d. 肝臟 c. 内臓索 d. 胎胞

二、内臟轉錯ハ雙畸形兒ニ依リテ成立ス。
内臟轉錯症ト性別。

Emmert氏ニ據レバ、完全内臟轉錯症ハ女性ヨリモ男性ニ多シ。但シ原因ハ不明ナリト。此所ニ二三學者ノ統計ヲ表示シテ、以テ諸賢ノ參考ニ供セントス。

性	著者	著者		著者		著者		著者		著者	
		Wiston	Wenzelgitter	Küchenmeister	染間	川島	共	戸	堀	井	橋
男	一九(七六%)	四九(七二%)	八〇(六六・七%)	三一(七七%)	一七(八五%)	二七(七五%)	四三(七八%)				
女	六(二四%)	一九(二八%)	四〇(三三・三%)	九(二二・五%)	三(一五%)	九(二五%)	一一(二二%)				
計	二五	六八	一二〇	四〇	二〇	三六	五五				

本症ノ發見動機。

本症ハ既述セシ如ク、一八二〇年以降始メテ、理學的診斷法ニ據リテ生體ニ就キ發見セラル、ニ至リシモ、其後今日ニ至ル迄發見ノ動機ハ、死體解剖、他病診斷、徴兵検査等ノ際ニ偶然發見スルモノナリ。余ノ例ニ於テモ他病診斷ノ際ニ偶然發見セリ。而シテ理學的診斷ノ進歩ニ從ヒ、特ニ近時「レントゲン」線ノ應用ニ由リテ、本症ヲ確實ニ發見スルニ至レリ。

本症患者ノ健康度。

本症ハ敢テ疾病トナスベキニアラズ。從ツテ之ノミニ依リテ、特ニ認ムベキ機能障害ヲ起セシ例ヲ聞カズシテ、發育佳良ニシテ天壽ヲ全フセシ例ハ、決シテ尠カラズ。間島氏ノ例ノ如キハ、發育佳良ニシテ、聯隊ノ急行軍十七「キロ」(一時間六「キロ」)、其他ノ秋季機動演習等ニ参加セルモ、落伍セシ事ナシト。然レドモ、心臟畸形ヲ有スルモノ

一八七三年 *Wright* 氏ノ報告セル、二例ガ、左利ナリシタメ氏ハ内臟轉錯症患者ハ常ニ左利ナリト言ヘルヨリ、人ノ注目スル所トナレリ。然ルニ *Gery*, *Guchet*, *Rochester*. 諸氏ハ、左利ト内臟轉錯症トハ何等關係ナシトシ、近來本邦ニ於テモ内臟轉錯症ノ大多數右利ナルガタメ、認メラレザルガ如シ。内臟轉錯症患者ニ就テ、左利ノ割合ヲ見ルニ諸家ノ統計ヲ示セバ、左ノ如シ。

[illegible]

左ニ右利、左利ノ原因ニ關スル諸說ヲ例舉セン（今田氏ニ據ル）。

一、解剖的關係說。

イ、血液分佈差異說。

ニ、言語中樞左右說。

ロ、胎位說。

ホ、臥位說。

ハ、内臟分佈不相稱說。

二、遺傳說。

イ、自然淘汰說。

ロ、遺傳說。

三、教育習慣說。

イ、偶然說。

ロ、南面說。

ハ、教化說。

實 驗 例

患者、北○勇○、男、五十六歳、鳳至郡劔地村産。

初診、大正十二年十月二十五日。

主訴、全身ノ浮腫、心悸亢進、呼吸困難。

遺傳的關係、父ハ四年前七十七歳ニテ、所謂中風ニテ死亡、母ハ今年八十歳ニシテ健在ナリ。同胞ハ六人アリテ、

患者ハ初子ナリ。第二ハ女ニシテ健在。第三ハ男ニシテ健在。第四ハ男、四年前赤痢ニテ死亡。第五ハ男肺結核ニテ

死。末子ハ男ニシテ健在ナリ。舉子八人内六人ハ健在ナルモ、二人ハ生後二年ニシテ不明ノ疾患ニテ死亡セリ。其他、

近親者ニ雙胎ナク、兩親ニ微毒等ナシ。

既往病歴、生來健ニシテ著患ナカリシモ、十八歳ノ時脚氣ヲ經過シ、二十三歳ノ時ニ微毒ニ感染シ、醫治ヲ受ケ

テ治癒セリト。尙患者ハ右利ニシテ、酒ヲ好ミ、時々二日醉セシ事等アリキト。

現在病歴、昨年九月頃ヨリ漸次下肢ニ浮腫ヲ來シ、心悸亢進アリテ醫治ヲ受ケ輕快セシモ、醫藥ヲ遠クレバ、又

前症ヲ起スト、而シテ近時ニ至リテ、漸次増悪シ呼吸困難ヲ加フルニ至レリ、因リテ我が理學的診療科ニ診ヲ乞ヘリ。
 現在症。體格中等、榮養尋常、皮膚黃褐色、口唇「チアノーチッシュ」、顔貌ハ緊張ヲ缺キ不活潑ナリ。輕度ノ體動ニ據リテ、呼吸困難アルヲ認ム。齒牙ハ二十四五歳頃ヨリ、齒痛ヲ發セシタメ、拔齒シ兩側外門齒、及ビ犬齒ノミニシテ、他ハ皆義齒ヲ用ヒ居レリ。輕度ノ舌苔アリ。

胸部。前胸部ニ於テ、所々ニ癰風ヲ認メ、右側ノ乳嘴ハ左側ヨリモ小ナリ。心臓、觸診上、心尖搏動ハ右第五肋間ニ於テ、乳線外約一指橫徑ノ部ニ認ム。打診上、心臓(第三圖)左界ハ左胸骨線ヨリ、約一指橫徑半左側ニアリ。右界ハ心尖搏動ヲ認ムル部ニ一致セリ。聽診上、心尖音ニハ何等變化ナキモ、肺動脈音、僧帽瓣音、共ニ第二音幾分亢進シ不純ナリ。肺臟。打診上、兩肺尖「クルツ」ニテ、其他ハ變化ナシ。聽診上、一般ニ呼吸音弱ク、肺泡音及ビ聲音震顫ハ、左側ハ右ヨリモ強シ。右肺尖ニ於テ大動脈音ノ傳達スルヲ聞ク。食道。嚥下雜音ハ背側ニ於テ兩側ニ聞キ得ルモ、特ニ右側ニ於テ強シ。肝臟。右胸ニハ肝臟ニ一致スベキ濁音界ナク、トラウベ氏半月狀部ニ於テ、之ニ一致スル所見アリ、即チ、左乳線上第六肋骨以下濁音ニシテ「レントゲン」診斷ニ由リテ、轉位セル肝臟ナルヲ知レリ。脾臟觸知セズ。

腹部。視診上、一般ニ輕度ニ膨隆シ、觸診上、腹壁緊張シテ、何處ニモ壓痛點等ナシ。胃。膨滿法、ヲ行ヒタルニ、劍狀突起下一橫指半部ヨリ、臍下一橫指ニ亘ル上腹部、一般ニ膨隆シ、特ニ右方ニ於テ甚シ。打診上、胃上界ハ右第六肋間、下界ハ臍高ナリ。聽診上、何等特記スベキモノナシ。腎臟。左腎ハ右腎ニ比シ、打診上少シク低位ニアルガ如キモ著明ナラズ、「レントゲン」透視上、ニテモ認メ得ザリキ。辜丸。左側辜丸ハ右側ノモノニ比シ強垂セリ。反射機。膝蓋腱反射微弱、大胸筋、三頭膊筋反射普通、咽頭懸樣垂反射普通、角膜反射陽性。食欲不進、便通一日二行、(投藥)利尿一日七八行、(投藥)、嗜好品トシテハ、酒、煙草、酸味、辛等ニシテ茶、甘味等ハ好マズ。脈搏。九〇、正調ニシテ中等硬ナリ。血壓。最低九五、最高一五七、(リバーロッチ)呼吸數。三〇、ワ氏反應。陰性。尿

淡黃、透明、酸性、蛋白、糖、血液、等ナシ。糞便檢查。有形、軟、不消化物比較的少ク、粘液、血液、等ナシ、蛔蟲卵ヲ證明シ得タリ。

臨牀的診斷。全內臟轉錯症。僧帽瓣狹索閉鎖不全症。

「レントゲン」的檢查。

心臟。背腹位方向透視ニ於テ、中央陰翳ハ恰モ(第一圖)鏡像的位置ニ存在シ大動脈ハ幾分擴張シ、上方ニ伸展シテ鎖骨下緣ニ至ル。右第一弓ハ(第一圖)半圓形ニ突出シ陰翳可成リ強ク大動脈硬化ノ像ニ一致ス。第二弓、第三弓、ニハ何等變化ナキモ、第四弓ハ異常ニ膨隆セリ。而シテ左第一弓(第一圖)及ビ第二弓モ亦異常ニ擴大シ、タメニ心臟ノ長徑及ビ横徑、共ニ著シク長シ。第二斜位方向透視ニ於テ、「ホルツクネヒト」透明帶ハ、中央部狹小著明ニシテ、左房ノ擴大セルヲ示ス。肺臟。肺野ハ一般ニ闇ニシテ搏動セル(第一圖)樹枝狀ニ分岐セル、肺血管ノ陰翳著明ナリ。而モ左肺門部ニ於テハ、心室搏動ト調動ノ相反スル、血管陰翳ヲ認ム、即チ肺鬱血ノ徵候明カナリ。其他變化ヲ認メズ。横膈膜。形狀、運動等ニハ變化ナキモ、(第一圖)右横膈膜ハ左ノモノニ比シテ約一肋間低位ニアルヲ認ム。肋骨。前方ニ於ケル(第一圖)下垂度強ク、動物ニ見ルガ如キ狀況ヲ示シ第一肋軟骨ノ(第一圖)石灰化著明ナリ。氣管。正中线ニ於テ、僅カニ左上方ヨリ右下方ニ傾斜セルヲ認ム。食道。「バリウム」造影劑ヲ嚥下セシメツ、檢スルニ、其ノ速度、下行狀態等異常ナカリキ。胃。早朝空腹胃ニ「バリウム」造影劑、四百立方糎ヲ、攝取セシメツ、檢査セルニ、(立位)右側横膈膜下ニ胃泡ヲ證明シ、(第二圖)胃體幽門部共ニ鏡像的位置ヲ示セリ。緊張力普通ニシテ鉤狀型ヲ呈シ、下界ハ臍高ニアリ。蠕動機尋常ニシテ幽門部ハ少シク正中位ニアリ。十二指腸起始部モ正常ニ出現シ、陰翳缺損及ビ其他ノ變化ナシ。更ニ「エツフロレ」デ「スルニ、十二指腸ハ完全ニ充滿シ、凡ソ二等邊三角形ヲ呈セリ。「バリウム」攝取後二時間ニシテ、再ビ透視セルニ、胃殘留「バリウム」始メノ約五分ノ一ナリキ。腸。小腸ニハ何等癒着等ナカリキ。「バリウム」攝取後二十四時間ニシテ、之ヲ檢スルニ、廻盲部(第二圖)ハ左側腸骨窩ニ於テ認メラレ、其ヨリ上行

結腸ハ左側ヲ上行シ、左彎曲部ニ連ナリ、其ヨリ橫行結腸ハ、V字型ヲナシテ右方ニ進ミ、右彎曲部ニ至ル。而シテ右彎曲ハ左彎曲ヨリ遙カニ高キヲ認メタリ。更ニ之ヨリ出デシ下行結腸ハ、右側ヲ下行シ右側ノS狀部ニ連ナリ、正中线ニ於テ直腸竇ニ至ルヲ見ル。大腸緊張力(第二圖)ハ幾分「アト—ニツシュ」。蟲様突起ハ之ヲ認ムル事ヲ得ザリキ。肝臟。右ニアルベキ肝臟ノ陰翳ヲ、左側橫膈膜下ニ於テ認メ、非常ニ濃厚ナル陰翳ヲ呈セリ。而シテ下界ハ肋骨弓下緣ニ一致シ、型狀ニ變化ナク陰翳缺損亦認メラレズ。

特殊検査。

内臟轉錯症ニ關シ、其他ノ臨床的徵候トシテ、稍々價值アルモノアリ、本例ニ就テ特ニ檢索セル成績左ノ如シ。

一、肺胞呼吸音ハ、一般ニ右側ノ方左側ノ其ヨリモ弱シ。

二、聲音震顫ハ、一般ニ左側ノ方右側ノ其ヨリモ強シ。

三、食道ノ嚥下雜音、胸椎ノ兩側ニ於テ聽診シ得ルモ、特ニ右側ニ於テ著明ナリ。

四、腎臟ノ位置不明。

五、辜丸ハ右側ハ左側ノ其ニ比シ強垂セリ。

六、患者ハ右利ナリ。

七、左側乳嘴ハ左側ニ比シ小ナリ。

本邦文獻。

一、赤沼信吉氏、内臟位置變錯症ノ二例、(醫聞、四六七ノ二三。)

二、雨森一郎氏、内臟位置變錯症ノ二實驗、(醫誌、九三五ノ三。)

三、佐藤豐氏、内臟位置變常ノ一奇症實驗、(醫誌、九二七ノ二一。九二九ノ九。)

四、栗本東明氏、内臟轉位兼膽石症ノ實驗及剖檢記事、(醫誌、九七九ノ二〇。九八〇ノ一二。九八三ノ八。)

- 五、戸田孝作氏、内臟轉位ノ一例、(醫誌、一〇四七ノ二四。)
- 六、桑波田嘉吉氏、上膊粘液肉腫及内臟轉位ノ一例、(成醫、二〇二ノ一。)
- 七、伊東祐彦氏、疫痢兼内臟變位ノ解剖記事、(醫會、一二ノ二三ノ三四。)(杏林、一一ノ一〇ノ七。)
- 八、河合清氏、臟位轉錯ノ一例、(中央、三二ノ二三。三二ノ一八。)
- 九、宍戸俊治氏、臟位轉錯ノ一例付左利右利ノ原因ニ就テ、(中外、四六〇ノ五。四六五ノ一六。)(中央、三〇ノ一。)
- 一〇、長與稱吉氏、内臟位置轉錯ノ二例、(胃腸、一ノ三ノ一二三。)
- 一一、竹崎季勳氏、内臟轉位、(濟生、一〇七ノ九〇二。)
- 一二、山浦貞三氏、内臟變常症實驗、(醫聞、六二六ノ三九。)(醫誌、一二九四ノ一六。)
- 一三、宍戸俊治氏、再ビ臟位轉錯ノ統計ヲ舉ゲテ、左利ノ原因ニ論及ス、(好生、一〇ノ二ノ七三。)(醫聞、六四三ノ一。)
- 一四、市川爲次郎氏、稀有ナル内臟ノ變化、(治療、三三ノ一二三七。)(醫聞、六七五ノ五八。)(醫誌、一三八五ノ二二。)(中外、五九二ノ二九。)
- 一五、杉田源吉氏、内臟轉錯ノ「デモンストラチオン」、(中央、六一ノ七五。)
- 一六、弘田長氏、右心症、(兒科、四八ノ一、稀有ナル先天性心臟異常ノ内。)
- 一七、池田邦脩氏、右心症ニ大動脈不全閉鎖症ヲ兼ネタル一例、(醫聞、六六八ノ二四。)(愛窓、四ノ六三。)
- 一八、黒田春吉氏、内臟轉位ノ一例、(北越、一四五ノ二四。)
- 一九、市川爲二郎氏、稀有ナル内臟ノ變化、(左右轉位)附討論、(兒科、五八ノ附ノ三。)
- 二〇、杉田源吉氏、臟位轉錯ノ一例、(醫聞、六七八ノ五六。)(醫誌、一三九四ノ二五。)(中外、五九七ノ四九。)

- 二一、石丸明義氏、内臓側位置轉錯ニ就テ、(成醫、二八九ノ三。)
- 二二、讚井源次郎氏、内臓轉位症、(臨床的。診定)ノ一例、(兒科、一〇一ノ三五。)
- 二三、三輪信太郎氏、先天性心臟畸形、附内臓顛倒位置、(宇都野研、兒科、一〇一ノ一。)
- 二四、前島淳一氏、全内臓側轉錯ノ一例、(醫誌、一五六二ノ一。)
- 二五、三輪信太郎氏、内臓轉倒位置、(宇都野研、醫會、二二ノ二ノ三五八。)
- 二六、酒井幹夫氏、内臓轉倒位置ノ臨床的一實驗、附「デモンストラチオン」、(兒科、一〇二ノ一二。)
- 二七、福士政二氏、珍奇タル先天性心臟畸形ノ數例、及内臓轉錯ノ一例、(醫會、二三ノ一五ノ二〇。二三ノ一六ノ一。)(消化、八ノ三ノ一九。)(中外、七〇六ノ一〇八一。七〇七ノ一二七〇。)
- 二八、第九師團軍醫分團研究會、内臓位置變狀症ノ一例、(軍團、四ノ四五八。)
- 二九、山本勉彌氏、内臓轉位症ノ二例、及其ノ統計、(福岡、三ノ二ノ六〇。)
- 三〇、堀井祐氏、臟位轉錯ニ就テ、(中外、七二一ノ四五五。)(軍團、一一ノ二三三。)
- 三一、森文男氏、内臓錯位症ノ一例ニ付テ、(醫誌、一六九七ノ一。)
- 三二、佐伯興太郎氏、内臓轉位ノ臨床的實驗、(山田、二ノ七三。)
- 三三、進士樸郎氏、内臓轉錯症ノ一例、(成醫、三四一ノ二六。)
- 三四、福士政二氏、内臓轉錯症ノ一例、(醫中、八五ノ二七。)
- 三五、三輪信太郎氏、瀧原五郎氏、右胸心ノ一例、(兒科、一一七ノ一。第二例、(兒科、一八二ノ一。)
- 三六、翁瑞春氏、心臟右在症ノ一例、(臺灣、九七ノ一三九六。)
- 三七、堀内清氏、完全内臓轉錯症ノ一例、(醫中、一二〇ノ一。)
- 三八、石橋四郎氏、臟位轉錯ノ一例ニ就テ、(十全、六八ノ一。)

三九、秋葉豐吉氏、内臟轉位(右胸心)ノ一例、(軍團、二一ノ九〇。)

四〇、渡邊正雄氏、内臟轉位症ノ一例、(東北、六七ノ二五。)

四一、村山巖氏、完全内臟轉錯ノ「臨床的診定」一例、(研瑤、一一三ノ三四。)

四二、木村茂太郎氏、内臟轉位ノ臨床的一實驗例、(北越、一九二ノ一九〇。)

四三、石原誠氏、稻田龍吉氏、内臟轉錯症ノ二例ノ「エレクトロカルデオグラム」供覽、(内雜、一ノ五ノ二九七。)

四四、七五三龜吉氏、臟位轉錯症ノ追加、(十全、九六ノ一九。)

四五、草島廉三郎氏、内臟轉錯症ノ一例、(病理、三ノ三八三。)

四六、田中研一氏、内臟轉錯症、兼子宮筋腫石灰化ノ一例、附子宮筋腫石灰化ノ知見ニ就テ、(鎮西、一五五ノ七、

比較的興味アル婦人科の疾患云々ノ内。)

四七、池田孝男氏、内臟全轉位ノ一剖檢例、(醫會、二八ノ一〇ノ七三。)

四八、小久保頼比古氏、内臟轉錯症ノ一例、(中外、八四一ノ四二一。)

四九、北村清太郎氏、完全臟位轉錯症ノ一例、(軍團、五八ノ五七五。)

五〇、吉田利一氏、友石市太郎氏、内臟全轉位ノ「レントゲン」線觀察ノ一例ニ就テ、(實醫、一ノ二ノ八九二。)(消

化、一四ノ五ノ三八七。)

五一、操垣水氏、完全内臟轉錯ノ一例、(研瑤、一二ノ六〇。)

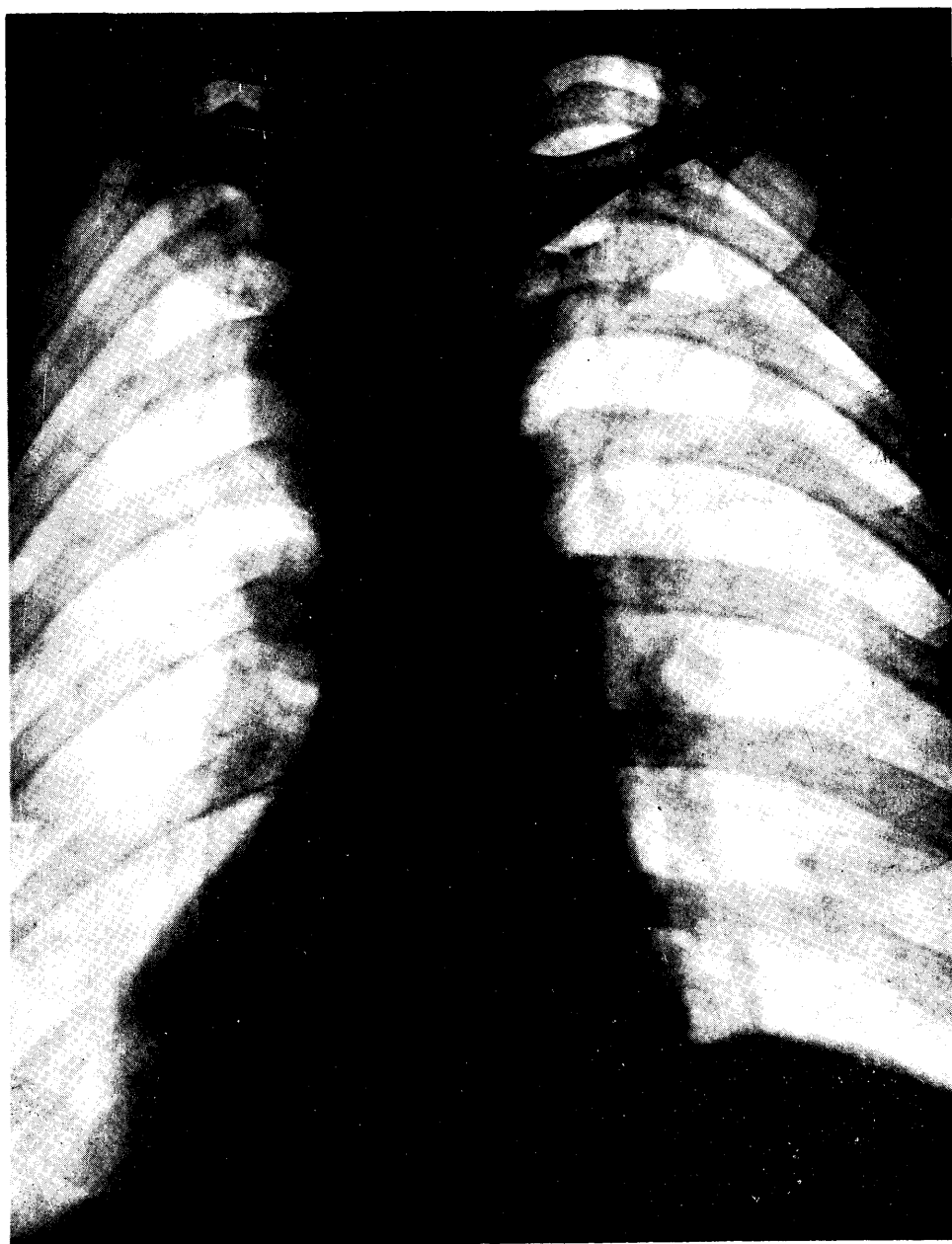
五二、中山悌五氏、全内臟轉錯ノ二例、(北越、二〇〇ノ六七。)

五三、田中研一氏、内臟全轉位症、兼子宮筋腫石灰化ノ一例、附子宮筋腫石灰化ノ知見ニ就テ、(醫中、二二ノ二

〇〇。)

五四、菅沼清太郎氏、安波勳八氏、内臟轉錯症ノ一例、(中外、八六一ノ一六三。)

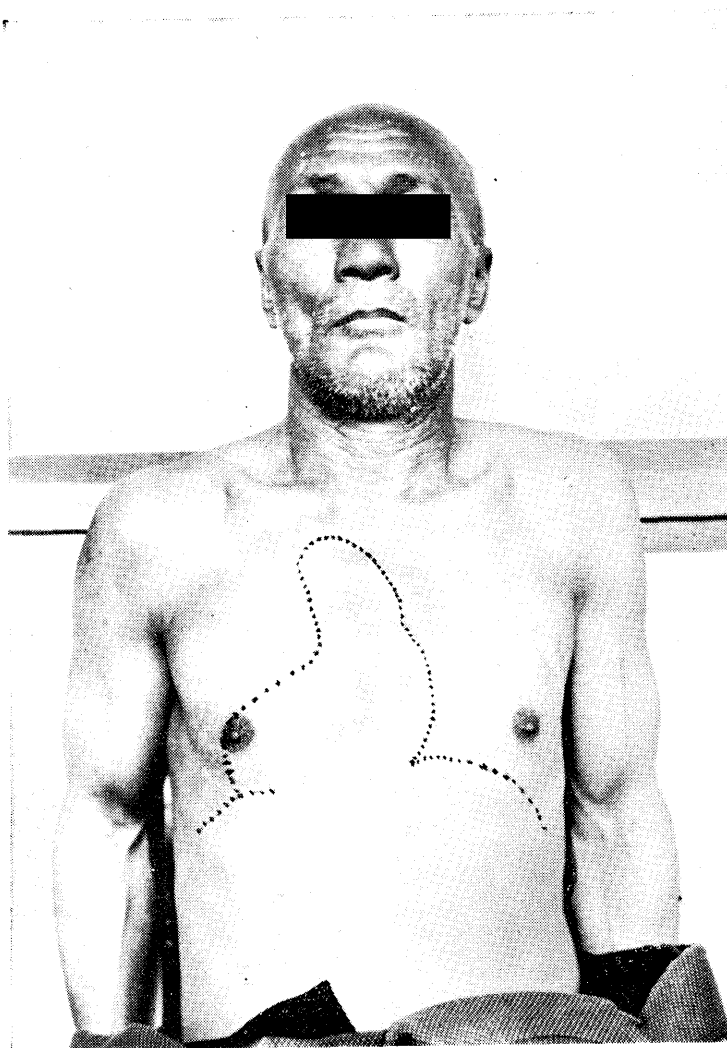
第一圖



第 二 圖



第三圖



五五、松枝新氏、大腸炎ト診断セラレ「イレウス」ト疑セラレ、更ニ腹膜炎ト診セラレタル、急性蟲様突起炎ノ一例、

附内臓轉錯、(岡山、三一四ノ一四ノ二七四。)

五六、間島信典氏、染川福治氏、完全内臓位置轉錯症ニ就テ、(軍團、六九ノ三二二。)

五七、山本幹雄氏、完全臟位轉錯症ノ一例、(内科、七四ノ六三。)

五八、瀬本嘉一氏、内臓全轉錯症ノ一例、(消化、一六ノ四ノ三三。)

五九、稻田龍吉氏、石原誠氏、内臓轉錯ニ於ケル心臟電流曲線ニ就テ、(九紀、四ノ一ノ一。)

六〇、村島種秀氏、内臓轉錯症ノ一例、(研瑤、二三ノ一四五。臨床拔萃録ノ内。)

六一、近藤清吾氏、内臓轉錯症ノ三例、(十全、二三三ノ一。)

六二、橋本學氏、内臓轉錯症ニ就テ、(十全、一五二ノ七。)

六三、橋本學氏、内臓轉錯症例追加、(十全、一五五ノ一。)

六四、今田俊英氏、内臓轉錯症及左利右利ニ就テ、(十全、一七四ノ一四。)

終リニ小池先生ノ御校閲並ビニ御指導ヲ深謝ス。

参 考 文 獻

- 1) 今田、(十全、一七四ノ一四)。
- 2) 橋本、(十全、一五五ノ一)。
- 3) 近藤、(十全二三三ノ一)。
- 4) 間島、染川(軍團、六九ノ三二二)。
- 5) 三輪信太郎氏、小兒科學下卷。
- 6) 秋葉、(軍團二二ノ九〇)。
- 7) 福士、(醫中八五ノ二七)。(醫會、二三ノ一五ノ二〇)。
- 8) 奥戸、中外(四六〇ノ五。四六五ノ一六。)(好生、一〇ノ二ノ七三)。
- 9) 井上新内科書第二卷。
- 10) 今氏病理解剖總論。
- 11) Broman, Norm. u. abnorm. Entwicklung des Menschen, 1911, S. 308.